

## ＜事業名：化学物質環境実態調査費＞

### 評価者のコメント

- 省内各部署からの要望を絞り込むための明確な判断基準が不明。本当に必要なのか否かの説得力に欠ける。1者応札、高落札が多い。不透明、入札条件の緩和が必要ではないか。何らかの競争性が働く工夫が必要。
- 事業の重要性は理解できるが予算の必要額を算定するに十分な資料が揃っておらず、十分な検証がなされていない。物質選定の入口における必要性、実施後の調査の有効性について十分検討、検証し、効率的、効果的な支出として頂きたい。入札等調達の競争性は高める余地があるのではないかと。
- 要望側の方が「必要度」について情報を持っているはず。それを自ら開示させる仕組みを導入すれば良い。私企業なら1検体当たり××円とお金をとれば、必要度の低いものは出してこない。官庁なのでそれはできないというなら、調査結果が要望部署で有効に活用されているか調べて、活用されていないならペナルティを与える仕組みを入れれば必要度の低いものは出してこないはず（イコール、自らこれは本当に必要なものだという情報を開示している）。
- 調査結果がどのように規制に利用されたのか、把握するシステムを確立する必要がある。必要な物質の調査ができない状況は改善すべき。
- 論点に対する説得力ある説明が全般的に不十分、わかりにくい。対象物質の選定方法、基準等を可能な限り明らかにし、事業の透明性・効率性の向上を図るべき。応札者を増やし、競争性を確保する必要がある。
- 分析データの活用という成果が把握されていない（H24～データ収集を始めたとのこと）。政策のために真に分析の必要な物質を絞り、本事業を実施すべき。
- 契約の効率化の努力が必要。  
（理由）①日本環境衛生センター、数理計画、ニッテクリサーチについては長期間一者応札となっている。②日本環境衛生センターの内訳については当日まで入手せず検証もされなかった。

## 評価結果

---

### 事業内容の改善

(事業全体の抜本的改善：1人、事業内容の改善：5人、現状通り：0人)

### 取りまとめコメント（要旨）

- 要望物質を絞り込む判断基準を明確にすべき。
- 一者応札に工夫の余地がないか改善すべき。